

平成26年度 第3回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閲覧用

1 開催日時 平成 27 年 3 月 26 日 (木) 午後 1 時 30 分 開 会

2 開催場所 丹波市商工会 柏原支所

3 出席者 (委 員)

北 川 博 巳	会長	里 尚	副会長
本 間 和 典	委員	足 立 安 夫	委員
矢田貝 勲	委員	海 北 祐 一	委員
石 田 光	委員	宮 本 健一郎	委員
北 村 正 彦	委員	荻 野 忠 志	委員
中 川 泰 一	委員	長 田 貴	委員
駒 谷 誠	委員		

委員 13 名出席

(デマンド型乗合タクシー運営者)

藤 本 泰 男

4 欠席者 畠 宏一郎 委員
細 見 尚 ニ 委員

中 澤 秀 明 委員
成 田 徹 一 (オブザーバー)

5 会議に付した議題及び案件とその内容

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

(3) 報告事項

① デマンド交通の状況分析について

② 「てくてく たんば」平成 27 年 3 月号の発行について

(4) 協議事項

① 身体障がい者等の介助者の料金変更について

② 規約改正について

(5) 閉 会

(事務局)

それでは、本年度最終回となります第 3 回丹波市地域公共交通活性化協議会を只今から開催させて頂きたいと存じます。皆さん大変お忙しいところ、ご参集頂きまして有難うございました。本日は、報告事項と協議事項等がございます。様々なご意見を頂きながら進めて行けたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。それでは北川会長にマイクをお渡しさせて頂きまして、よろしくお願い致します。

(会長)

どうも皆さん、こんにちは、お疲れ様でございます。だいぶ、暖かくなってきて、暖かくなってきたということは、年度も終わりに近いということです。丹波市のデマンド交通も走っており、今までは、年に 4 回の会議開催の時もありましたが、安定して今日を迎えて、今年度の第 3 回の地域公共交通活性化協議会を行いたいと思います。今回は、どちらかというと、報告事項が中心で協議事項が 2 点でございます。それについて今日は協議をしていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。それでは早速、行きましょう。報告事項からお願いをしたいと思います。よろしくお願い致します。

(事務局)

失礼します。はじめに、資料の訂正ですが、先に送らせてもらった名簿の中で、一番左に番号があります 6 番の丹波市自治会長会の幹事、里様ですが、幹事となっておりますが、副会長の間違いですのでご訂正をお願い致します。

それでは座って報告事項をさせていただきます。はじめにデマンド交通の状況分析について、お手元のお配りしております資料の「別紙 1」となります。デマンド（予約）型乗合タクシー登録状況について、3 月 17 日現在の数字を掲載させて頂いております。平成 26 年 5 月 1 日時点でデマンドの登録者数は 9,724 人ありましたが、今回の登録人数は、9,679 人となっており 45 人減りました。これは、新規登録が 224 件ありましたが、死亡や転出等がございまして、初めて全体の登録者数が減になったということでございます。

次に、「別紙 2」の資料で、デマンド（予約）型乗合タクシーの運行状況についてご説明をさせていただきます。「別紙 2」は 3 ページあります。平成 26 年の 4 月 1 日から今年の 3 月 17 日までの運行状況における利用者数を掲載させて頂いております。その中で一番下の表を見て頂きたいのですが、平成 22 年度から平成 26 年度までの 200 人以上の日数を記載したものと 1 日平均を記載しております。1 日平均を見て頂いても、今年度においては 171 人ということで、伸びてきております。また、1 日に 200 人以上の利用を頂いた日が、平成 26 年度は 3 月 17 日時点で 35 日となっております。平成 26 年 10 月に 10 万人を達成しまして、今のところ、3 月 17 日時点で 11 万 2,987 人という延べ利用者数となっています。以上で「別紙 2」の説明を終わらせて頂きます。

続きまして、「別紙 3」のデマンド（予約）型乗合タクシー月別 1 日平均及び曜日別延べ

利用者数の資料となります。これは、今年 1 年間の各月の利用者数の平均をはじめ、1 日当たりの利用者数並びに 1 台当たりの利用者数を集計しております。4 月からずっと 2 月までは前年を全て上回っておりますが、3 月については、利用者数が少し減少してきております。この理由について、はっきりとした分析ができていないため、分析をする必要があると考えております。全体的には年間を通しては、去年を大きく上回っており、最終的には去年の 3 万 491 人を上回り 3 万 2500 人、又は、3 万 2,000 人くらいには、到達すると予想しております。以上で報告事項 1 のデマンド交通の状況分析についての報告を終わらせて頂きます。

次に報告事項 2 の「てくてく たんば」の発行について説明いたします。お手元に配布しております「てくてく たんば」を今年の 3 月 17 日に各デマンド登録世帯 4,901 世帯に発送させて頂きました。あと、医療機関、薬局、商店等の市内 185 か所に設置をしてまいりました。今回の変更点については、前回のこの協議会でもご指摘頂きました 4 ページに 10 万人を達成した時の写真と説明を入れております。これは前回の協議会の中でトピックという形で、記載したらどうかといったご意見を頂きましたので、今回の改定に合わせて、記載させて頂きました。写真掲載については、許可を頂いております。それから、変更点でございますが、8 ページになります。これも前回のこの協議会で意見を頂いたことになります。時刻表の下に※印で青垣住民センター着・発便のうち 3 便を佐治まで延伸していますといった文言を追加しております。前回発行版において、地図については修正しておりましたが、ここに佐治まで 3 便行くようになりましたということを入れた方がいいと言うご意見を頂きましたので、追加させて頂きました。

それから 1 ページめくって頂きまして、11 ページになりますが、今までは福知山線だけの時刻表と料金表を掲載しておりましたが、ここに、加古川線の時刻表を加えさせて頂きました。同じ丹波市の中で、やはり加古川線も利用頂く必要がございますので、料金表と時刻表を入れさせて頂きました。それからあと、福知山線の時刻表の上り下りの所で、JR のダイヤ改正が 3 月 14 日にありましたので、それに合わせて時刻表を変更させて頂きました。以上で「てくてく たんば」についての説明は終わらせて頂きます。報告事項は以上でございます。

(会長)

どうも有難うございました。いくつかご報告があったと思いますが、それに関してお気づきの所がありますでしょうか。よろしいですか。

(委員)

今日は特に、報告事項的な事は用意しておりません。

(会長)

またお気付きの所がありましたら、遠慮なくご指摘を頂ければと思います。

報告事項にありましたが、お亡くなりになられる方も多くて、丹波の人口維持の話にも関連してくることでありますが、死亡になられるまでデマンドの会員で、かなり利用されているのではないかと事務局も仰ってましたので、そのような意味では、丹波のご高齢の人の地域づくりにかなり役立っているのではないかと思います。

このような点についても、もう少し研究者としては明らかにして、有効性を示していかなければいけないと思っています。80代の方のご利用者が多いので、このようなデマンド型交通は大事であると、改めてお気づきのことではないかと思います。

それから、右肩上がりで利用者も増えている状況にあるということですね。今年度を振り返りますと、休み期間中の営業日数を減少させたかと思っています。運行日数が減っているという状況の中で、利用者が増えているということです。かなり効率的に効果的に運営が図られたのではないかと思います。それから、「別紙3」資料について、今回の報告では、初めて少し下がったという結果が出ていますが、これはどのような理由なのでしょう。

去年は16日170人。今年は10日で156人という数字です。まだ、途中の段階ですので最後の数値を見て分析して行きたいと思っています。普通、バスの場合は、7月や8月などの暑い時、1月や2月などの寒い時には、利用者が減るといえるものが多いのですが、このデマンドに限っては、大きな差はない状況でありますので、継続していけるイメージできております。他に何か、お気づきの所はございますか。

(委員)

はい。すみません。これに合わせての話ではないのですが、私は去年、高齢者の交通安全教室によく回らせて頂いています。先日でもその際に、非常に便利に使わせてもらっているとデマンドの話が出ました。しかしながら、営業日数が週4日、平日ということもあり、土・日については、ずっと家にこもっており、土・日も外に行きたいといったご意見がありました。また、予約型で当然動いていますので、行き先までは連れて行ってもらって、買い物等をされて、帰られる時に空の乗合タクシーを見かけて、乗せてと言っても予約がないため乗ることができないと言って、空で帰られたというようなことも話にでていました。融通をきかせてもらうということは出来ないのかというような意見でした。実際に利用者の方のお声としてそのようなことがありましたので、今後もし検討が出来るようなことであれば、またご討議頂けたらと思います。よろしくお願い致します。

(会長)

特に、空車でもったいないという話はよくありますね。今日は無理かもしれませんが、また考えていけたらと思います。有難うございました。こういう地域といいますか、生の

声というのはすごく大事ですので、引き続きご意見取りを是非して頂ければ有難いと思います。よろしくお願いします。それでは次に進みたいと思います。またお気づきの所がありましたら、ご発言いただければと思いますが、今日は協議事項として2点ですね。1点ずつ行きましょうか。まず身体障がい者の介助者の料金変更ということで、ご説明を頂きたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

それでは、協議事項の1、身体障がい者等の介助者の料金変更についてになります。

①として身体障害者手帳第1種の介助者について、現在では料金の割引はしておりませんが、今回200円にしたいということを提案するものです。

②として療育手帳判定区分A所持者の介助者も同じく、300円を200円にしたいということを提案するものです。理由としましては、資料に記載してあります通り、前回の協議会での意見を踏まえて、JR・路線バス等においても半額となっていることから、デマンド乗合型タクシーについても300円を200円に減額するものでございます。

「別紙4」の資料は、公共交通活性化協議会の会長から陸運部へ提出する各タクシー会社との協議が整っている証明書になりますが、その前に「別紙4」の参考資料として付けております、公共料金等の割引という表を見て頂きたいのですが、よろしいでしょうか。

参考資料の上から2段目のJR各社の旅客運賃の割引の欄に、身体障害者手帳または療育手帳所持者は第1種障害者とその介護者が利用する場合について、5割の割引率があることとなっております。それから資料の上から5つ目の項目で、バス運賃の割引という所も対象者が身体障害者手帳又は療育手帳所持者第1種障害者と介護者となっております。飛行機についても同じような所がございます。それに合わせまして、デマンドにつきましても、身体障害者手帳第1種と療育手帳の判定区分Aの所持者と介助者について割引をしたいと考えております。それから、参考資料の次のページに付けておりますのは、身体障害者程度等級表になります。

小さい字で見にくくて申し訳ないのですが、濃い太字線より上は第1種を、下は第2種を表すと書いてあり、濃い太い線で区分してあります上が1種で、下が2種ということでございます。

後ろにつきましては、兵庫県の療育手帳判定要領ということでA、B1、B2とあり、今回はAの介助者について減額するものでございます。それから、先ほども説明しました資料の「別紙4」に戻って頂きたいのですが、「別紙4」で協議が調っていることの証明書を発行する中で、その3番目の運賃の種類、額及び摘要方法という所がございます。

そこで今までは、①と②の2つの項目に、三つ目に身体障害者手帳第1種及び療育手帳判定区分A所持者の介助者、1回の乗車につき200円と、③として身体障害者手帳第1種及び療育者手帳判定区分A所持者の介助者向け回数券も11枚綴りで2,000円にするということを明記するものでございます。以上でございます。

(会長)

はい、ありがとうございました。まず、1点目の協議事項としては身体障がい者等の介助者の料金変更ということで提案が出ております。確かに見てみますとデマンド乗合タクシーはタクシーと言いながら、一人一人お金を取る公共交通としての役割を果たしているということです、どちらかと言いますと公共交通サイドに合わせた割引設定でやっていきたいと思います。それで値段も300円から200円にする。半額ではありませんが、100円割引きますよといった設定でやっていきますということですか。これにつきまして何か意見ありますでしょうか。はい、お願いします。

(委員)

「別紙4」では、運賃の種類、額及び摘要方法の白丸の2つ目には精神障害者保健福祉手帳所持者の記載もあります。精神障がいの方は知的障がいの方とよく似たような部分もあり、なかなか区別するのが難しいと思います。何を言いたいかと言いましたら、精神障がい者の手帳というのも1級から3級まであり、1級と2級が介助者、いわゆる第3者の抑制の必要があるとか、2級に関しては介助の必要性があるというふうな内容になっています。他の公共交通の制度に合わすというのが大前提であれば、検討の余地として、独自のデマンドというような交通について、全てを公共交通の設定状況に合わせるのではなく、独自の設定についても考えていいのではないのでしょうか。精神障がい者の方についても、外に出る機会が非常に少ないというのも事実です。そのため、本人は免除が入っておりますが介助者についても同様に含むというような検討の余地があるのかどうかということなのですが。

(会長)

実は割引制度については、結構の問題がありまして、今回は如何ですか。別紙の中に精神障害者保健福祉手帳を持っている方は割引しその介助者はしてないといった話ですが、その確認をまず出来ればと思うんですが、如何ですか。

(事務局)

今、仰いましたように公共交通、JRやバスと異なって、この会議でデマンドは精神障害者保健福祉手帳の所持者の介助者を含めることは可能であると考えています。現時点では、他の公共交通に合わせるように設定していますが、ここで皆様のご意見により、内容を変更するということになるのは問題はないと考えます。

(会長)

基本的にはバスは運送約款により決められており、基準的な運送約款にも精神障がい者の方も対象に含めましょうといった議論も結構されています。本来だとやはり配慮の対象

にはなるべきかと考えます。

デマンドというのは、ドアツードアの公共交通という意味あいですので、精神的な障がいのある方の介助者についても、将来的には検討が必要と考えます。本日この場で、やりましょうと決めるのはちょっと調整が不足していると思います。協議が調ったら、その都度その都度、制度を変えていくと思いますので、本日の所はこれで決定しておき、4月1日から実施しておいて、次の機会に改正するといったことでいかがでしょうか。本来であれば、一度に改正しておいたほうが事務的には楽になるのですが。

利用者の意見も聞く中で、どのようなテクニックでこれをやるか、どうしたらいいか、確認は行った方がいいと思います。それで確認して。基本、やる方向が望ましいはずなので、少し考えて頂けませんか。

利用者への確認の方法と、協議が調ったらいつどのように制度を改正するかが課題であり、検討を願います。それから、私からの確認になるのですが、デマンドの車両そのものについては、バリアフリーとしては適用除外の扱いになっていますが、やはり身体障害者手帳1種をお持ちの方は、車椅子のユーザーとか、例えば電動車いすを乗られる方もいらっしゃるもので、どのように配慮していくかという所も、これから検討していかなければならないのではないのでしょうか。制度として割引しているのに乗ることができないといったことがないように。そのあたりについて不安と言えば不安なのですが。これについても、デマンドのオプションではないですが、代替りの交通手段として、例えば路線バスはローステップだとか、それから福祉タクシーも幾ばくかはありますし、有償運送も行われています。そのような、様々な交通手段があるという情報はしっかりまとめておいて、言われた時は提供するという体制を事務局としては作っておかなければならないと思います。よろしくお願ひしたいと思います。如何ですかね。精神障害者保健福祉手帳保持者の介助者の話ですけど、どうさせて頂きましようか。

(事務局)

今、会長さんが仰いましたように、精神障害者保健福祉手帳保持者の介助者の話は、4月1日はちょっと難しいのかなというのがあります。出来るだけ早く書類を整えて、陸運部に提出させて頂きまして、次回6月くらいに予定しています。それまでに精神手帳の方のことも事務局の方で調整をしまして、また会長さんとも協議をしながら、次の会議の時に提案させて頂き、2段階で行っていく方法もあるかと考えております。

(会長)

陸運部としては、その都度その都度でやっていけばよろしいですね。はい、有難うございます。では、今回は、2段階といった形で進めて行ければと思います。その他如何ですか。お気づきの所ありましたら。よろしいですか。事務局からのご提案の協議としては承認ということで進めてよろしいですね。では、よろしくお願ひ致します。それから、少し宿題

は残りましたという形をお願い致します。それではですね。二つ目、規約改正ということで、この協議会もだいぶ長くなってきましたので、少し見直しをという所だと思います。それでは、ご説明お願い致します。

(事務局)

では次に、2 つ目の規約改正になります。資料としまして、「別紙5」の規約になりますが、黄色いマーカーを付けている箇所が追加の部分です。内容としましては、第 6 条の役員の中に会計責任者を加えるということです。それから、会計責任者には建設部長を充て、会計責任者の事務分掌を明記するといった内容です。理由としましては、会長が予算及び決算の調整並びに支出命令等の会計事務に関することの全てを今まで行っていたのですが、会長さんにいたりましては、遠方でもございますし、打合せ等の時間も要することがありますので、会長の職域軽減といった意味と、会計の責任を明確化するという意味で、会計責任者の追加を改正するものでございます。

資料の「別紙5」の第 6 条を読み上げさせていただきます。(役員) 第 6 条 協議会に会長、副会長、会計責任者及び監査員 2 名を置き、会長及び監査員は委員の互選によりこれを定め、副会長は委員のうちから会長が指名し、会計責任者は建設部長をもって充てる。2 項、会長は、協議会を代表し、会務を総括する。3 項、副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。4 項、会計責任者は、次に掲げる事務を分掌する。1 号、歳入歳出予算の収支及び決算に関すること。2 号、現金の出納保管に関すること。3 号、現金の記録管理に関すること。4 号、支出命令の審査に関すること。以上を追加するものでございます。

(会長)

有難うございました。これにつきましては、実は私のわがままみたいな所があるのですが、デマンドの運営上に関しまして、大きいものですから。会計上の責任について、明確にしておきましょうといったご提案を申し上げたということと、現金の出納がスムーズに行われるということが非常に大事ですよといった所を少しご提案させて頂いて、このような改正案の形になりました。会長、副会長、会計責任者、監査員という体制で進めて行くということで、いいでしょうか。それでは異議ないということで。これにつきましても、4 月 1 日から施行でよろしくお願い致します。今回については、以上の 2 点について協議を行いました。それから、4 月 1 日からの委員の委嘱についてありますが。これについてよろしくお願い致します。

(事務局)

失礼致します。先日、皆様方、お出合い出来る方にはお出合いさせて頂き、また、大変

電話で失礼させて頂いた方もおられますが、平成 27 年 3 月 31 日で委員の任期が満了となります。そのため、4 月以降について、引き続きお願いいたしましたところ、皆さん、快くお引き受け頂きました。本当に有難うございました。任期が始まる前に誠に申し訳ありませんが、本日、皆さんお集まり頂いている良い機会なので、ここで委嘱書の交付をさせて頂きたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

本来なら市長より、お一人お一人、委嘱書を交付させて頂くところですが、このような形で交付させて頂きました。次の 2 年間、また、様々な協議等お世話になりますが、皆さんよろしくお願い致します。お世話になります。

(会長)

引き続きよろしくお願い致します。障害者手帳のことで思い出したことがあり、先日、別の会議での話になるのですが、その時に、兵庫県では障害者手帳の外見は全て同一になっており、脳障がい、3 障がいにいたっても、手帳に写真が添付されおり、本人確認ができ、バス関係でも、混乱がかなりあるようです。そのような意味では、やはり行政制度に合わせて、デマンドも交通会議で行っている乗り物ですから、混乱のないような形で、適応させて行くという点では、3 障がい一体にして介助者の割引を行った方がよいのではないかと思います。出来れば、その方向でお願いしたいと思います。それでは最後ですね。本日は、かなり順調で有難い限りなのですが、その他のその他という所ですかね。何かございましたらお願いします。

(事務局)

あと、次回開催日のことですが、次回は平成 27 年 6 月に第 1 回の開催ということですね。これまでの 1 年間デマンド状況、バスの状況等の報告になります。以上でございます。

(会長)

分かりました。6 月にまた日程が来ると思います。よろしくお願い致します。最後にはいつも私は、お一人お一人からお話を伺うのですが、折角出席されていますので、マイクをお渡ししますので、何か一言お願いいたします。

(委員)

当社もこの 3 月で 26 年度の決算期を向かえておりますが、私どもの営業所の収支状況について簡単にお話させていただきます。乗合収入の内、一般の方が乗られて頂く現金収入につきましては、若干減少傾向にございます。補助制度等が 1 昨年当たりから減少して定

期の方が若干増えているような状況の 1 年でした。これは、各市から補助金を交付して頂いていないと厳しい状況です。ただし収支は何とか横ばい傾向といった状況です。有難うございました。

(委員)

公共交通会議で、住民センターから佐治の車庫への路線延長を去年の 10 月に行いました。ただ、要望以上に乗られる方が、思ったより少ないというのが現状のところ。一人でも二人でも乗られたら、成功かと思うのですが、そのような状態で希望はいろいろあるかと思いますが、出来かねることもこれからあるのではないかと思います。またそのような点についても、この会議で検討して頂けたらと思います。それと丹波市では、新病院のことについてかなり話題になっていると思いますが、その路線についても私どもとして、考えて行かなければいけないという状況になってきております。まだ 3・4 年、先になりますが、またこの会議でも話題になってくるかと思しますので、いろいろと良い方向に向けて形にしたいと思しますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(委員)

ちょっとご挨拶と、申し上げることがないのですが、このような形で交通会議に参加させて頂きまして、様々なことを皆さんと一緒に勉強させて頂きたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(委員)

デマンドについては、利用者が伸びてきているような状態なのですが、逆にタクシーの方が減ってきている状況であり、デマンドの影響があるかどうかは不明ではありますが。丹波市内では、タクシー業者が 6 社あるのですが、6 社全て減少しております。今の所、無事故でやっておりますので、無事故が続いたら一番いいと思っております。以上です。

(委員)

有償運送につきましては、公共交通会議や地域の合意の中で、認めて頂いて継続されています。今後につきましても公共交通会議の中でなんとか、有償運送を継続できるよう皆さんのご協力よろしくお願いしたいと思います。

(委員)

例年 4 月半ばに春の全国交通安全運動というのが行われるのですが、今年に限っては、4 月中に統一地方選があるということで、5 月の 11 日から 20 日までと、約 1 か月ずれ込むことになりました。その中で毎回、話題になる問題が、シートベルトやチャイルドシートの着用の徹底ということであります。昨年 1 月に、福祉車両の後部に乗っている方がシー

トベルトをされていなくてお亡くなりになったという事故が発生しています。

去年の調査の結果ですが、丹波市内では運転手は 98%、助手席でも 90%のシートベルトの着用率であります。その中で、後部座席に至っては 20%台であり、ほとんど着用してないというのが現状です。いざ事故が起これば、前席にはエアバッグが着いていますが、後部座席の人がシートベルトを着用していない場合、ほぼ間違いなく前に飛んでいきます。フロントガラスにぶつかったり、天井で頭を打たれるというようなことも、多々発生しております。特にデマンドのような公共交通で、普段乗りなれない方を乗せるとベルトしてくれと言にくいと思いますが、全席シートベルトがあるので、シートベルトの着用の徹底を一つお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

(委員)

失礼します。皆さんにはいろいろと公共交通の円滑な運営にご協力頂きまして有難うございます。先程にも意見がありましたように、議会の方からも、新しい病院への直通でデマンドを運行してほしいなど、いろんな声があります。ただ、それにつきましては、1 時間に 1 本で各地域を巡回しているシステムを変えるのはなかなか難しいといったことの説明をさせて頂いております。そのような中で、新しい病院が建設されることで、こちらの方としましても、路線バスが新病院へのアクセスを確立していただけるか、こちらの方もこの会議の中で検討して頂くたいと思っております。また、今後とも病院の見学等、来年度から関わってくると思いますので、この会議の中で、そういうことについても検討をお願いしたいという様に思っております。失礼します。

(委員)

実際、運営の方を任されている中で、私がオペレーターをしている訳ではないですが、1 日の苦情とか些細なトラブルも全て日報で報告頂いております。最近においても、トラブルはあることはあるのですが、デマンド交通というのが理解されて利用されているということがあり、苦情については、当初と比較して少なくなっているというのが事実です。それと定期的に丹波市とタクシー業者、それから商工会との 3 者で会議を開きまして、苦情やトラブルに対しての対応を行っておりますので、今のところ、順調にきており、それもこのように利用者数が伸びてきているような結果かと思えます。これからも続けて行きたいと思っております。

(委員)

公共交通ということで、丹波市さんと一緒に J R の利用促進もやっております。J R はデマンドほど利用者が伸びておらず、下げ止まりの状況です。人口減少の中で、なんとか右肩下がりが、下げ止まりになっているのはなぜだろうというようなことを考えていますが、そういった時にデマンド交通や二次交通は非常に役に立っています。お互いに相乗効

果を与えるのではないかと考えておりますので、ウインウインの関係で、いろんな公共交通が行える取組みをこれから進めていければと感じております。以上でございます。

(委員)

私が知っている有償運送の範囲で、運転手さんの高齢化というのが進んでおりまして、ちょっとした事故というか、違反といったことが実際に地域の中ではあります。そのため、高齢者の適性検査や免許継続のための様々な方策というのが、ある程度いい意味で厳しくなっているというのが事実です。ただ、有償運送においては、運転手の確保が出来ないというようなことで、70 歳以上の高齢者の方々しか残っていないという状況で、事業をやめる地域も実際にあったりします。ただ、私としては、高齢者の方が乗せる命というのは、高齢者の方だけに限ったものではなく、車、公共交通機関全部ですね。そのため、しっかりと地域住民の方の生活支援と障がいのある方の自立についての役割を果たしているといったやりがいとしっかりと監視してもらうためにも、高齢者の方が継続されて安全に運転出来るような状況を望ましく考えています。これからどんどん現場で働く役割を担う方々も高齢になっていく中で、そのようなサポートも大切であり、どのように行ったらよいかという課題を感じているところです。情報として知っておいて下さい。

(委員)

社会福祉協議会と車の関係になりますと、丹波市の方も御存じのように、おでかけサポートといって無償で主に病院とかお買い物に関して、ある一定の基準の方、お年寄り、障がいをお持ちの方に対して、丹波市の施策で社会福祉協議会がかなり大きな事業費を頂きながら行っております。丹波市も平成 27 年度に全体的な行政改革云々に取り組まれるということもお聞きしております。おでかけサポートについては、実質は固定した人ばかりでございます。新たに介護度が高くなったりして増えてくることもあるのですが、全体的な福祉の運送云々の中でまた、行政の方でお持ちかけを頂いて考えて頂ければと思います。以上でございます。

(委員)

非常に老人に対しては皆さんにご迷惑をかけております。それから、免許証等返したらいいのではないかとということですが、やはり生活手段としては絶対これは返せないという話になります。事実、遠隔地におられる人は、車がないとタクシーを呼んでも、なかなかすぐには来てくれないといったこともあり、返納してもらえません。それと同時に、私が一番危惧しているのが自転車です。足が痛いから自転車で出かける方は、ご存じのようにほんとにフラフラした運転をされます。今後はやはり、車よりも老人の自転車事故が多くなるのではないかと危惧しております。一つまた今後ともご迷惑かけますが、よろしくお願ひしたいと思います。

(委員)

先日、ある地方の公共交通の場で出た話になりますが、一部の公共交通は不便なものではなく、不安なものだといった話です。交通機関を利用するにはどうすればいいのか。或いは、バス一つに乗りにしても、後ろから乗った方がいいのか、前から乗った方がいいのか、乗り方も分からないということで、丹波市さんはこういう「てくてく たんば」という冊子を出されておられます。これはよいと思いますが、その地域の方にはこのような冊子を出したプラスに、この地域からどこへ行くにはどういったルートがあるかといった地域ごとで分けたルートマップみたいなものを作っておられました。それも、ルートマップを事業者と行政が一緒になって、全戸ではないですが、一軒、一軒、家を回り利用状況を確認されています。このようなことを行えば、こういうルートにはこういう公共機関、病院があるなど、一つ一つのルートを作って頂くと、利用しやすくなり、もっと利用が増えると思いました。それと、国としては、バリアフリーも含めていろいろと行っています。10 数年前は 1 日利用者数が 5,000 人以上の駅は、バリアフリーということでエレベーターなどの設置を補助対象として指導してきましたが、それについても一応の区切りが出来き、3,000 人以上ということになっております。丹波地域には 3,000 人以上を超える駅はないと思いますが、もっと利用があれば補助の対象に出来るということもあり、また、対象でなくても車いす対応を含めてスロープを両サイドに付けることなどを検討しておけば、鉄道駅、バスの乗換えの駅といった、ステーション的なものとして進めて頂いたら利用しやすいものになると思っておりました。以上です。

(会長)

有難うございました。いろいろあり、宿題を一杯頂いたような気がします。先程、協議会の中でお話がありましたが、バリアフリー地方構想も是非丹波市で 1 つくらいは作れるようになるかと。とにもかくにも、委員の皆さま 1 年間お疲れ様でございました。再任用の方は来年も引き続きお願いしたいということと、異動される方がいらっしゃれば、本当にご苦労さまでございました。デマンドのお話で見ていると、地域を映す鏡みたいなものが見れたんじゃないかと思います。またここで得た知識を次の職場で生かして頂ければと思いますので、ご活躍をお祈りしております。1 年間ご苦労さまでございました。

(委員)

どうもご苦労さまでございました。様々なお話を聞かせて頂けて、私も色々なことで勉強させて頂きました。JR の話が出てきたのですが、福知山線の複線化の促進協議会というのがございまして、各地区がそれぞれのアイデアをもとにしながら、利用促進を行っている場なのですが、氷上町では、切符を買って頂くお客さんにポイント制を行っていて、切符を買って頂いたら 1,000 円ごとに 1 ポイントが付いて 50 ポイント集めれば、丹波市の

共通商品券と引き換えを行うようなサービスで繋げていっております。それも一つの例なのですが、特に 3 月は高校生が進学の時期になりますから、ポイントを 2 倍にして、出来るだけ利用して頂きたいと思って、様々なことに取り組んでいるところです。このようなことを一つ合わせて、この公共交通機関と J R との時間的な乗継の改善を重ねていけば、もっと促進が出来ると思っているのですが。石生駅には特急が停まらなくなりましたので、困っていることが沢山あります。

本日もたくさん議題があったのですが、手際よく会議を進めて頂いて、無事に終わりました。特に協議事項の中では、今の障がい者の中で精神障がい者の関係については少し宿題が残りましたが、また 6 月のこの会議の時に事務局の方でいろいろと前向きに取り込んでいけるような方向で検討できたらと思っております。それからまた、先程出ました病院の問題についても、市にもいろんなことをお願いを行い、一般の交通事情も状態が変わってくる可能性がありますから、いろんなことを検討しながら、よりよい丹波市になるように、進めていかなければなりません。今日は本当に有難うございました。これをもちまして閉会とさせて頂きたいと思います。